

地質標本館来館者 150 万人達成記念セレモニー報告

福田 和幸¹・瀬口 寛樹¹・藤原 智晴¹・下川 浩一¹・清水 裕子¹・兼子 尚知¹・
中村 由美¹・朝川 暢子¹・川辺 禎久¹・中澤 努¹・藤原 治²

1. はじめに

2025 年 12 月 6 日、地質標本館の累計来館者数が 150 万人を達成しました。本稿では、150 万人達成までの背景と記念セレモニーの様子について報告します。

2. 150 万人達成までの来館者数の推移

1882 年に旧地質調査所（現産総研地質調査総合センター；以下、GSJ）が設立され、以来 140 年以上にわたる GSJ の研究成果を、日本の地質、地下資源、海洋の地質、地球環境、火山と地熱、地震と活断層などのテーマごとに展示する GSJ の公開施設として、1980 年に地質標本館が開館しました。その後、国内最大級の地球科学専門のミュージアムとして、一般の方から専門家の方々まで認知されるようになり、現在も幅広く親しまれています。

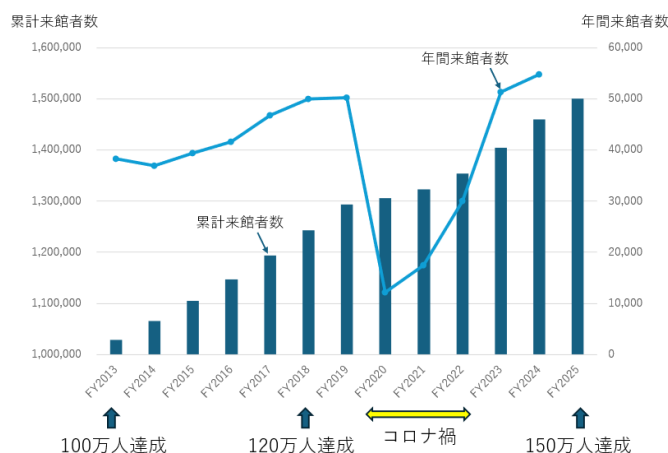
2013 年 7 月 20 日に来館者数が 100 万人を達成すると（住田ほか、2013）、以降は年間約 4 万人台で推移し、2013 年から早くも 5 年目の 2018 年 5 月 23 日には、来館者数が 120 万人を超えました（産総研地質調査総合セン

ター地質情報基盤センター、2018）。2020～2022 年度はコロナ禍により来館者数が急激に落ち込みましたが、2023 年以降は一気に増加に転じて年間 5 万人を超え、2025 年 12 月 6 日、150 万人を達成しました（第 1 図）。1980 年に地質標本館が開館して 45 年目での記録となりました。

3. 当日の様子

地質標本館の記念すべき 150 万人目の来館者は、後藤様でした。当日は 14 時から地質標本館長の司会で記念セレモニーが始まり、はじめに GSJ 副総合センター長より祝辞を述べました。インタビューでは、本屋で石や鉱物に関する図鑑を見てそれから興味を持ったこと、小学生の時から地質標本館のことは知っていてよく来ていること、今日もイベントがあったので母と一緒に来たこと、これからたくさんイベントを開催してほしいという回答をいただきました。地質標本館という存在が、未来の地質学者の大きな原動力の一つとなっていることを感じた瞬間でした。

その後、くす玉割りが行われ、その場に足を止めた 50 名を超える来館者の皆さまからの大きな拍手に会場が包ま



第 1 図 2013 年度以降の来館者数および累計来館者数の推移。

¹ 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

² 産総研 地質調査総合センター

キーワード：150 万人達成、地質標本館、来館者



第 2 図 認定証.



第 3 図 記念品(シナノキの化石).



第 4 図 地質標本館オリジナルグッズセット.

れました。そして GSJ 副総合センター長より認定証(第 2 図)が手渡され、続いて記念品として栃木県那須塩原市から産出したシナノキ(第四紀中期更新世塩原層群)の化石(第 3 図)、地質標本館オリジナルグッズのセット(第 4 図)も贈呈されました。セレモニーの終了後、記念撮影を行ったのち(第 5 図)、館長による 150 万人目の来館者特別ガイドツアー(第 6 図)を実施しました。約 1 時間、後藤様は地質標本館館内の展示物の解説を受けながら館内をご覧いただきました。

4. おわりに

地質標本館は 1980 年 8 月 19 日の開館からの累計来館者数が 150 万人を達成いたしました。これもひとえにご来館される皆さまのご理解と温かいご支援の賜物によるものと関係者一同深く御礼申し上げます。これからも GSJ の研究成果の紹介を通じて、広く一般の方に、地球と社会のつながりを知ってもらうための活動に貢献してまいります。ちきゅうとしゃかいをつなぐ 標本館——これからも地質標本館にどうぞご期待ください。



第5図 記念撮影の様子(左から藤原GSJ副総合センター長, 150万人目の来館者, 中澤地質標本館長)。



第6図 地質標本館長による特別ガイドツアーの様子。

文 献

産総研地質調査総合センター地質情報基盤センター
(2018) 地質標本館来館者 120 万人達成. GSJ 地質
ニュース, 7, 182.

住田達哉・吉田清香・大和田 朗・佐藤卓見・福田和幸・
平林恵理・青木正博・朝川暢子・宮内 渉・関口 晃・
中川明日香・菅家亜希子・宮本文晃・西澤良教・渡辺

真人(2013) 地質標本館来館者 100 万人達成記念イ
ベント報告. GSJ 地質ニュース, 2, 348.

FUKUDA Kazuyuki, SEGUCHI Hiroki, FUJIWARA Tomoha-
ru, SHIMOKAWA Koichi, SHIMIZU Yuko, KANEKO Naoto-
mo, NAKAMURA Yumi, ASAKAWA Nobuko, KAWANABE
Yoshihisa, NAKAZAWA Tsutomu and FUJIWARA Osamu
(2026) Report on the ceremony to commemorate 1.5
million visitors of the Geological Museum.

(受付: 2026 年 3 月 26 日)